

島牧村

出口 大成

1. 概要と歴史

1.1 自然

島牧村は、北海道の南西部、後志管内の南端、北緯 42°41'、東経 140°03'に位置し、北東は寿都町、南東は黒松内町、南西は檜山管内せたな町、南南東は今金町、渡島管内長万部町に接し、北西部は日本海に面している。面積は 437.26 k m²、人口は約 1900 人の漁業を基幹産業とする風光明媚な村である。本村の大部分を占める森林の中には 10,700ha を有するブナ原生林があり、その懐には落差 70m、幅 35m の「日本の滝 100 選」に選ばれた「賀老の滝」があり、訪れる観光客を楽しませている。また、狩場茂津多道立自然公園を擁し、奇岩や怪石の点在する海岸線、自然休養村に指定されている狩場山、日本名瀑百選随一の賀老の滝など自然に恵まれている。気候は温暖で温泉資源が豊富。

現在、第四次島牧村総合計画に基づき「豊かな自然と人の温もりを育む村」づくりをめざし、官民一体となって取り組んでいる。村名「島牧」はアイヌ語「シュマコマキ」（背後に岩があるという意）から転化したもの。

図 1 島牧村の位置



出所：島牧村 HP

図 2 村章



出所：島牧村 HP

画像 1 島牧村の木 ブナ

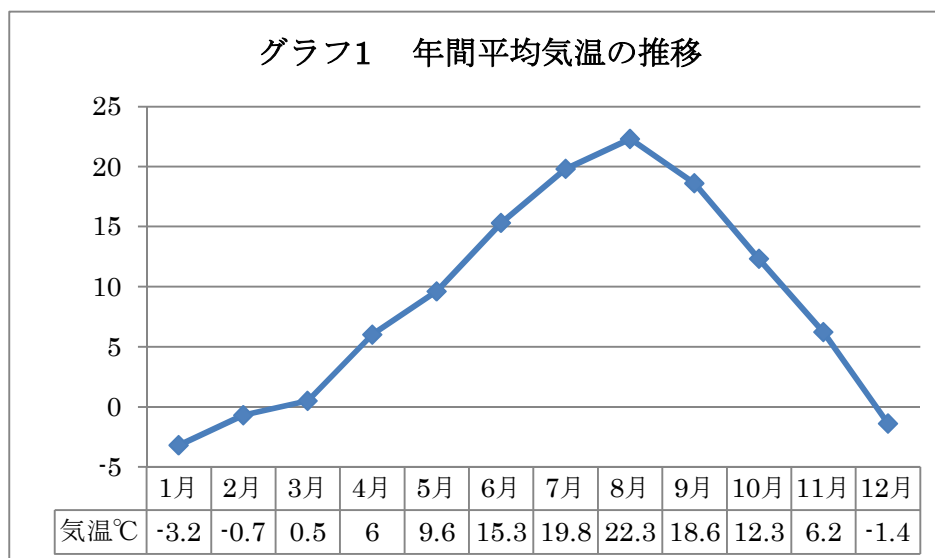


出所：写真共有サイト「フォト蔵」

画像 2 島牧村の花
オオヒラウスユキソウ



出所：山散歩 花散歩 徒然想



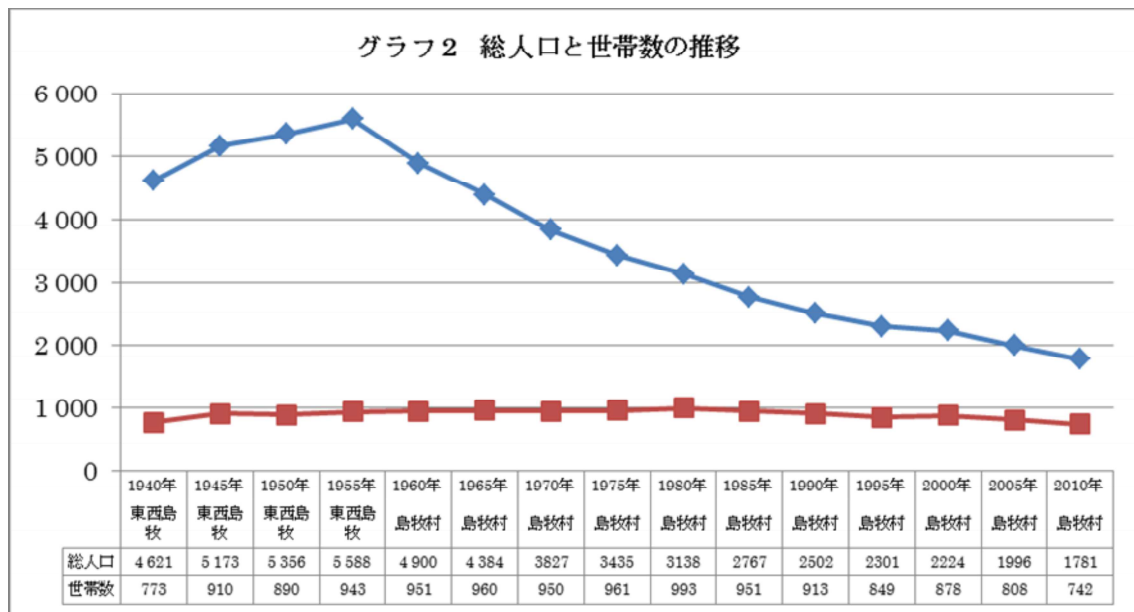
気象庁データより著者作成

村の面積の 80% 近くを山林が占めているが、比較的温暖で積雪も少ないということが島牧村の気候の大きな特徴の一つである。また、上のグラフは島牧村にもっとも近い地点の気象観測台での年間の平均気温の推移を示したものである。このグラフからも冬場の平均気温が北海道の地域の中で比較的温暖であるということがわかる。

1.2 歴史

1631 年以来、松前藩はシマコマキで金山を開発し、和人が多く入り込み、自然環境の激変により漁猟を生活基盤としていたアイヌ人の生活を脅かし、さらに 1640 年の駒ヶ岳噴火により、セタナイに大量の降灰があり、天然資源が激減したため、藩境を熊石に北上させた。それに反発したシマコマキの酋長ヘナウケが、セタナイまで南下し抵抗するが、藩兵により鎮圧されてしまう。さらに 1748 年にはシマコマキに場所請負がなされ、場所支配人による酷使や病により、アイヌ人は激減してしまった。その後、1872 年に永豊村に戸長役場を設置し島牧郡一円を統轄し、1899 年には永豊村戸長役場から分離し、大平川を境として東は大字本目村に、西は大字永豊村に各戸長役場を置き分割した。さらに 1906 年 4 月には二級町村制施行、村名をそれぞれ東島牧村、西島牧村とした。1910 年、西島牧村では 4 頭の牛の飼育が始まり、牛乳も販売されていたということである。明治末期から、千走鉾山でマンガン鉱石発掘が始まり、その後泊川鉾山・島牧鉾山も稼働したが戦後閉山している。昭和初年に漁港も相次いで竣工し、明治初年から採掘された石灰だが、土壌改良に必要とされ、昭和に入り道庁が石灰工場を設置、土壌改良に努めている。戦後は農業経営安定を目指し、村営草地も設置、肉牛を主に飼育を行っている。また、1956 年 9 月に東島牧村・西島牧村の両村を廃し、新たに島牧村を設置した。1965 年から 1974 年の間には村営ニジマス孵化場も完成し、稚魚の放流も始められている。

2. 総人口と世帯数の推移



国勢調査データより著者作成

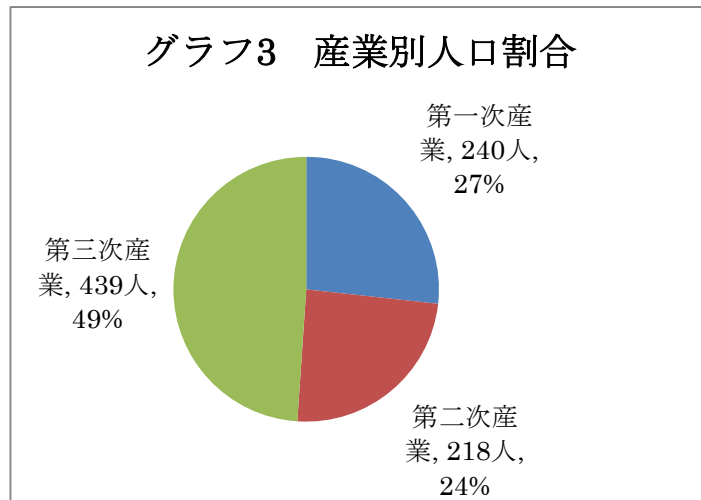
上のグラフは、1940年から2010年までの島牧村における総人口と世帯数の推移を示したものである。尚、1956年に東島牧村と西島牧村の合併が行われたため、それ以前の数値については合算している。総人口については、1955年までは増加傾向にあり、最大で5500人以上まで人口が増加したが、その後は減少傾向にあり、2005年からは総人口が2000人を下回る数となっている。また2005年から2010年にかけての人口増加率は100.00%であり、ほぼ横ばいである。参考までに、1995年から2000年の人口増加率は96.65%、2000年から2005年の人口増加率は89.75%であるため、近年の人口減少に歯止めがかからず、一貫した人口流出が続いていることがわかる。なお、1995年から2010年の人口増加率は86.74%となっている。この原因としては、都市部への人口の流出ということが考えられる。また、世帯数については、1980年までは増加傾向にあったが、その年を境に一転して減少していき、2010年の調査では、800世帯を下回る結果となった。

また、島牧村は全国の年齢別人口割合の平均と比較すると、60歳～80歳の高齢者の人口の割合が高く、15歳未満の子ども人口の割合が低くなっており、「少子高齢化」の状態が非常に進行している。この状態が続くと、将来、島牧村での働き手が不足するといった大きな問題を抱えている。また、高齢者夫婦の世帯数、あるいは高齢者単身の世帯数が多くなっている。今後は、どのようにして人口流出に歯止めをかけていき、将来の島牧村の発展へとつなげていくのかといった課題がある。

3. 産業

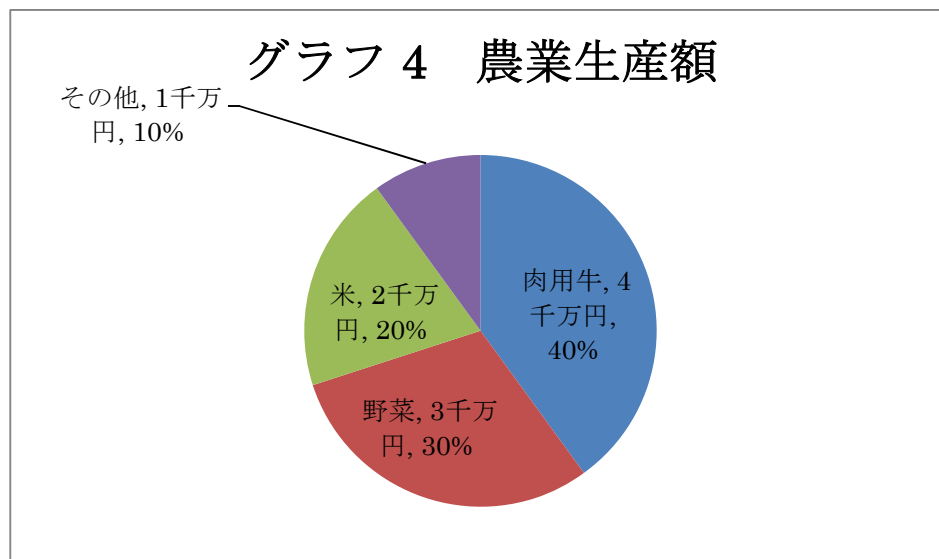
3.1 産業別人口

産業は漁業が主で、就業人口のおよそ3割が何らかの形で漁業に携わっている。そのため、右のグラフからもわかる通り、第二次産業よりも第一次産業の人口の割合が高くなっている。また、およそ5割の人が第三次産業に携わっているということもグラフから読み取られる。



経済 BANK HP データより著者作成

3.2 農業



農林水産省 HP データより著者作成

耕地面積 388ha のうち、353ha が畑、35ha が田となっている。そのため、上のグラフからもわかる通り、米作りがあまり盛んではないということがわかる。また、牧草の作付面積が 257ha であり収穫量も 6530t と豊かであることから、それをエサとする肉用牛の生産額が大きくなっている。また、野菜の中ではジャガイモの品種である「ばれいしょ」の生産がもっとも盛んに行われており、作付面積が 5ha、生産量が 73t となっている。それに次いでダイコンが多く生産されており、作付面積が 1ha 生産量が 34t となっている。また、

果物ではブドウの生産が行われており、作付面積が 3ha、生産量が 2t となっている。他の果物の生産はほとんど行われていない

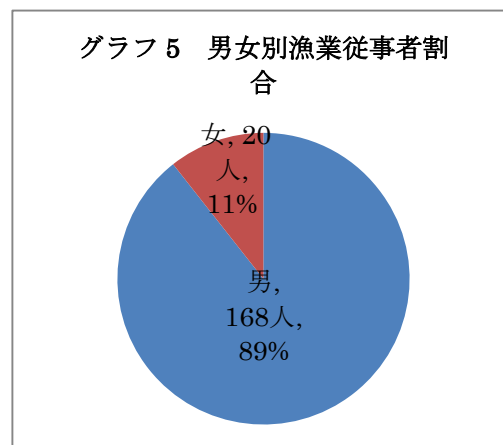
3.3 漁業

3.3.1 概要

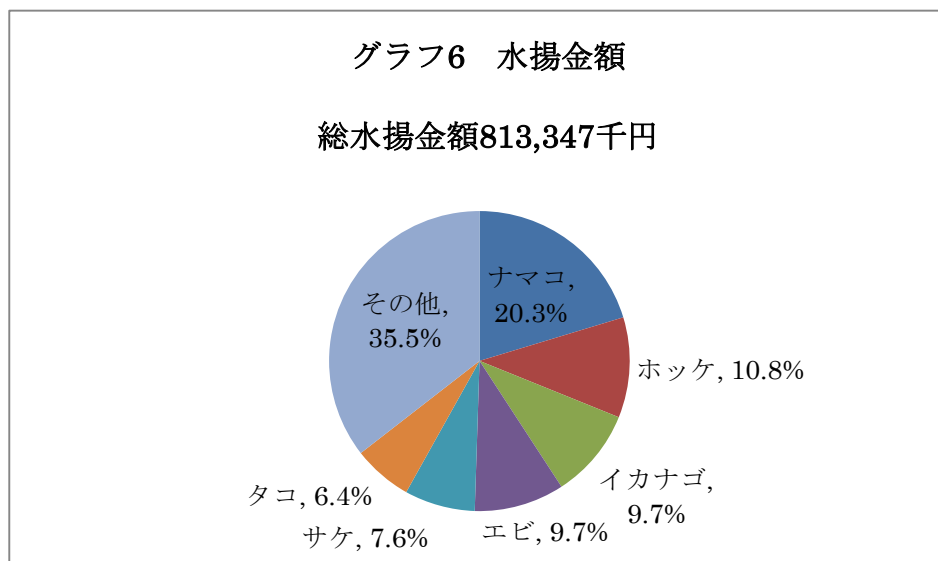
昔はニシン漁で栄えており、現在では、ヒラメ・カレイ・ホッケなどの刺し網漁、サケ定置網漁、タコ、エビ漁等が盛んとなっている。イカナゴは隣接する寿都町よりも漁獲量が多く、景観を生かした観光に力を入れている土地柄でもあり、村内には直売店や民宿を兼ねる漁家も多い。また、事業として「サクラマス増殖事業」というものを行っており、島牧村さけ・ます振興会がサクラマス人工種苗の生産・放流に取り組んでいる。他にも「マゾイ増殖事業」というものに取り組んでおり、島牧村・島牧漁業組合が 1996 年から千走漁港内の施設においてマゾイの種苗生産を行っている。さらに、800 万匹の稚魚を収容できる「島牧さけ・ます飼育池」も完成し、南後志の中核施設として近海の資源の底上げによる漁業経営の向上が期待されている。

しかし、これまでの「獲る漁業」から、種苗生産、産卵親魚の確保、未成魚の保護等、「つくり育てる漁業」の一層の推進による安定した資源の確保が必要、また、水揚げ物の鮮度確保や加工による付加価値の向上、直売場や宅配便のほか、さらにはインターネット通販等を用いた販路の拡大、「売る漁業」に漁業者自らも積極的に参入していくことが必要、都市住民を始めとして、今後も大きく進展が予想される遊漁など、海洋性レクリエーションと漁業との調和ある鉄所づくりが必要、資源管理型漁業や付加価値向上など、これら島牧村の水産業をめぐる課題に自主的に取り組むことのできる人材・グループの育成と活動に対する支援の強化が必要、漁業経営体数、漁協正組合員数は、依然として減少傾向にあり、それぞれの平均収入については、2001 年から 2005 年は 4,000 千円から 5,000 千円で推移していたが近年、ナマコの高騰と組合員の減少により収入額が増加傾向にあるが資源量の減少と価格不安定のため安定しない状況にある、などといった島牧村の水産業における課題も多々あるということも事実である。

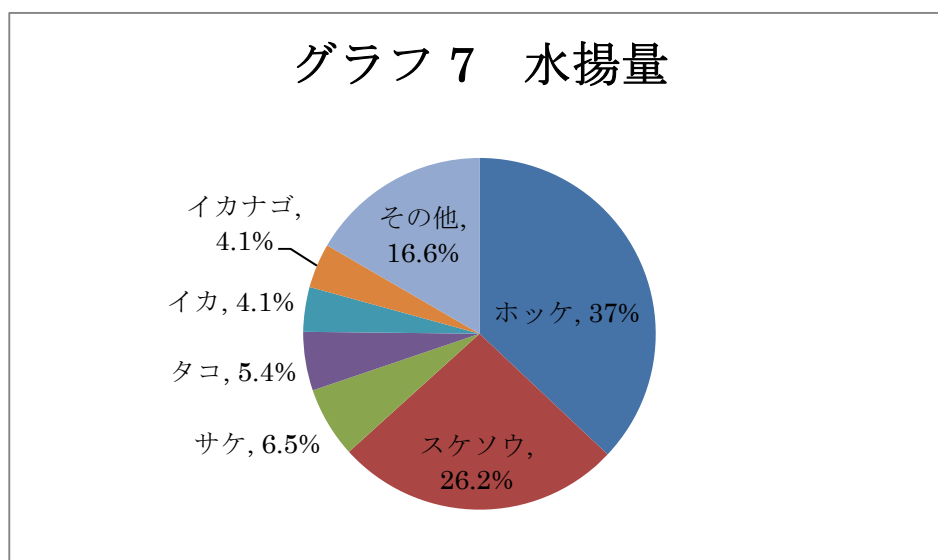
また、右のグラフは、島牧村における男女別の漁業従事者の割合を示したものである。グラフから、男性の漁業従業者が 168 人で全体の 89%を占めているのに対し、女性の漁業従業者は 20 人で、全体の 11%となっていることがわかる。このことから、島牧村では男性が主体となって漁業を行っているということがわかる。



3.3.2 水揚金額と水揚量



2011 年度島牧村水産係データより著者作成

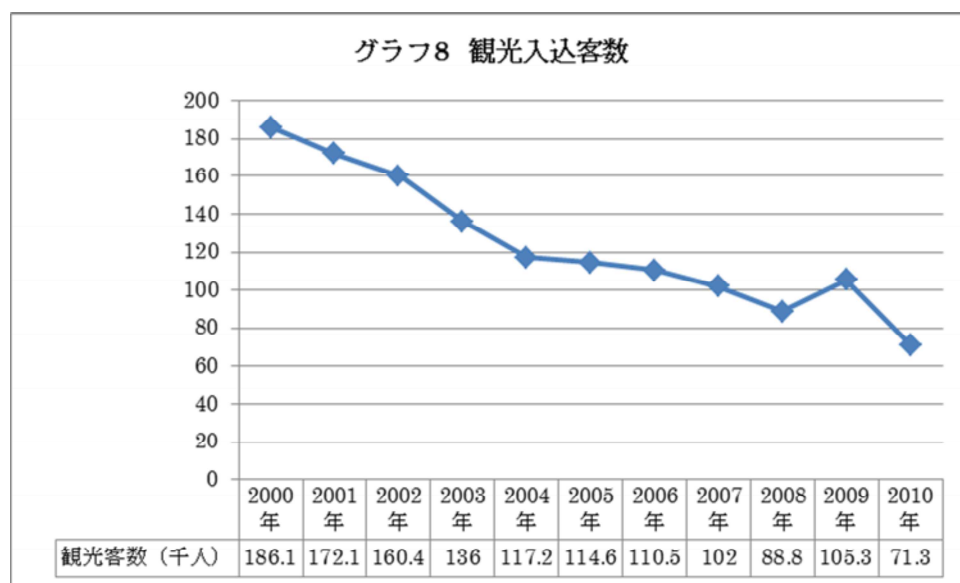


2011 年度島牧村水産係データより著者作成

上のグラフは、島牧村における水揚金額と水揚量を示したものである。水揚金額においては、近年中国での需要により価格が高騰したナマコが総水揚金額の 20.3%を占め、1 位となっており、次にホッケ、イカナゴ、エビ、サケと続いている。その一方で、水揚量の構成を見ると、圧倒的にホッケが多く、総水揚量の 37%を占めており、続いてスケソウ、サケ、タコの順となっていることがわかる。

4. 観光

4.1 観光入込客数



観光入込客数データより著者作成

上のグラフは、2000年から2010年までの島牧村における観光入込客数の推移を示したものである。2000年の時点では186.1千人だった観光客の人数が、年々減少してしまい、2008年には100千人を下回る人数となってしまっている。その翌年の2009年には再び100千人を上回る観光客数にまで回復したが、さらに翌年の2010年には大きく減少し、再び100千人を下回る結果となった。

